

---

# 村祭り

tetsuzo

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

村祭り

### 【Nコード】

N6616B

### 【作者名】

t e t s u z o

### 【あらすじ】

愛し合った二人が男の就職で離れ離れになる。盆踊りの日彼女は来るはずもない男に会いたい一心で盆踊りに出かける・・・

一頻りの驟雨があつて、強い日差しは相変わらずだが、田面を渡つてくる風が涼しさを感じさせる。一面に広がる田圃に稲苗が一斉にゆれて、縁側に腰を下ろした麗奈の眼にやさしく映る。騒がしい蝉の声に混じつて、遠く祭囃子が聞こえてくる。「来やしないよ・・来る訳ない・・でも、もしかして・・」洗い立てで糊の利いた浴衣を伸ばしながら、ため息をついた。もう何日目だろうか。一弥との別れは突然だった。蔵前に住んでいる一弥と一緒に、お洒落な浴衣を買った。あれはもう一年前。

十八の時、設計の専門学校に入り、一年先輩の一弥と出逢った。お互い一目ぼれで、たちまち親しく付き合うようになり、誰一人知らぬものもない、恋人同士だった。一弥が手縫いでブラウスを作ってくれたこともある。男の不器用な手で縫ったものだから、ヘンな格好だったが、とても嬉しかった。今もタンスの奥に大事にしまっている。三度目の食事の時、唇を奪われ、身体を許した。逢うというも抱かれてしまう。それがたまらなく嬉しかった。

一弥は二十歳になると大坂の大学に編入した。岩手と大坂。幸い花巻から大坂まで飛行機便があり、麗奈は月に2、3度大坂へ通っていた。大学を卒業した一弥は、岩手に帰らず東京で働くという。どうして私のいる岩手へ帰らないの。岩手だって私の働いているような設計事務所だってある。そりゃあさ、たまに一弥のアパートを尋ねて、買い物をしたり、色んなところ連れて行ってもらったり、食事をしたりするの楽しいよ。だけど私はずうっと一緒にいたい。だから帰ってきて欲しい。何度そういっても一弥は、はつきりした返事をくれない。丁度一年前、とうとう私は、岩手に帰ってこないんだつたら別れてと言ってしまった。あの日、一弥は別れの時、新幹線の窓越しに、こぶしを握り片手を振り上げる仕草をした。あれは何だったのだろうか。意地を張ってそれから一度も連絡をとっていない。

こんなに好きで好きでたまらないのに・・・一弥も手紙ひとつよさない。東京に好きな女でも出来たんだろうか。あいつ、内気で不器用なくせに強引なところがあるから・・・

夕日が田圃を照らし、蝉の声も蝸に変わった。いつしか祭囃子が華やかに、盆踊りの曲調になって、ひどく胸騒ぎがする。やっぱり行つて見よう。あれほど大好きな盆踊り。一弥が隣村から来るかもしれない。可能性は殆どないが、一弥の近況を、噂ばなしでもいい、僅かでも拾いたい。赤い鼻緒の駒下駄、朝顔を散らした可愛い浴衣そうだ、一弥の好きな黒髪をアップにしてみようか。ルージユは彼が嫌いだからグロスだけにしよう。下着はつけないほうがいいのかな。来るはずもない一弥。でも万々一逢えるかも知れない。なんとなく麗奈はウキウキした気分の家をでた。祭りの行われる鎮守の森はすぐそばだ。

麗奈が神社に着いたとき、祭りは最高潮に達していた。高い櫓の周りには何重もの人の輪ができ、みんな夢中に踊りを舞っている。眼をこらして人ごみを見る。やはり一弥は来ていない。どうして。どうして来てくれないの。こんなに、こんなに逢いたいのに。ああ、一弥。一弥・・・麗奈の目に一杯の涙があふれてくる。しゃくりあげてしまいそうになる。あのやさしい腕に抱かれない。口付けしたい。・・・・・・・・

立ち尽くす麗奈。何時しか日もとっぷりと暮れ、星が全天に輝き、盆踊りも終わりを告げようとしている。村の青年たちが、次々声を掛けてくる。スレンダーな長身。グラマラスな肢体。長い黒髪と真っ白な肌、愛くるしい面差し。麗奈ちゃん、一杯付き合わないか？お前一弥と別れたんだろ？うるさい！バカ！あたしには一弥しかない！泣きながらふと見ると、神社前の暗がりの階段に白い浴衣を着た長身の男が佇んでいる。ドキンとする。か、か、一弥・・・一弥が来ている！男が立ち上がった。こちらの方へゆっくり歩いてくる。心臓が飛び出しそうになる。夢にまでみたあの顔。あの眼差し。男の眼に一杯涙が浮かんでいる。ものをも言わず、二人は抱き合う。

すぐに唇がふさがれる。「だ、大好き。麗奈。逢いたかった」麗奈  
はただ泣くだけ……

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6616b/>

---

村祭り

2011年1月18日03時16分発行